

おおぶレインボープランについて ～総合的な長期欠席者支援による Well-being の向上～

大府市は、長期欠席（不登校）児童生徒一人一人が抱える、多様で複雑な背景を適切に把握し、個々の状況に応じた学校内外での環境づくりや各種相談体制の充実を図り、児童生徒の自立と社会参加を促進することで、自己肯定感を高め、身近に幸せを感じられるよう、「おおぶレインボープラン」を取りまとめました。

長期欠席児童生徒は全国の小中学校で約 30 万人に上り、大府市でも増加傾向にあります。大府市では、平成2年度に「大府市レインボーハウス（教育支援センター）」を開設し、長期欠席児童生徒への取組の礎として長年活動しています。施設名の「レインボー」には、利用者の個性や彩りを大切に、個々に寄り沿った支援への想いが込められています。

このプランは、本市のレガシーとして受け継ぎ、長期欠席児童生徒の多様な在り方を受け入れ、これからの社会変化に対応した総合的な支援体制を整備し、誰一人取り残されない教育を目指します。

■ Well-being（ウェルビーイング）の向上について

Well-being とは、身体的・精神的・社会的に満たされた状態のことを指し、近年、教育の分野においても注目されています。児童生徒ごとに様々な事情や環境があることを理解し、環境を整え、個人や個人を取り巻く場や地域が幸せを感じられる状態に高めていくことを1つの目標としていきます。

■ ^{なないろ}長期欠席児童生徒への7色の支援

1 学校内における居場所の充実

【新たな取組】

(1) 校内フリースクール化に関する調査・研究（令和6年度以降）

中学校全校に設置する校内教育支援室について、多様な在り方が認められる社会に変化してきていることを踏まえ、自己肯定感を高め、社会的自立を図る場としての機能を持つことができるよう、校内フリースクール化に関する調査・研究を進めていきます。

【現在の取組】

(1) 校内教育支援室の設置、市独自で配置する専任の校内教育支援室支援員による悩み相談や学習支援

(2) 児童の心身の健康管理の充実を目的として、市内全小学校の保健室において2人体制で対応できるよう、市独自で「養護教諭補助員」を配置

2 学校外における居場所の充実

【新たな取組】

(1) 第二教育支援センターの新設（令和6年度以降）

レインボーハウスでは、在籍者数・利用者数が年々増加し、特性や年齢等に応じた支援が難しくなっています。また、通所距離の問題から通うことができない児童生徒が潜在的に一定数いることが想定されます。そこで、市内に第二教育支援センターを新設し、児童生徒にとって利用しやすい環境となるよう検討していきます。

(2) 民間フリースクール等を利用する児童生徒への支援（令和6年度）

長期欠席児童生徒の中には、民間のフリースクール等を利用している例もありますが、授業料が平均で月額3万円以上かかり、保護者にとって大きな負担となっています。

そこで、長期欠席児童生徒が様々な居場所を保護者とともに自主的に選択し、社会的自立を図ることができるよう、フリースクール等の授業料を補助します。

【現在の取組】

(1) 「レインボーハウス」における学校復帰・社会参加に向けた支援

3 ICTを活用した相談支援・居場所の充実

【新たな取組】

(1) メタバースの活用（令和5年度）

レインボーハウスでは、スクールカウンセラーによる相談支援を行っています。直接面会しての相談を不得手とする児童生徒への対応や、新たな居場所づくりに向けた環境整備の一つとして、メタバース(ネット上の3次元仮想空間)を利用した支援を行います。

【現在の取組】

(1) タブレットを活用した、自宅・別室等でのオンラインによる授業参加

4 相談支援体制の充実

【新たな取組】

(1) スクールソーシャルワーカーによる支援体制の拡充（令和6年度）

児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行うスクールソーシャルワーカーについて、相談内容が多様化し、相談件数が年々増加しているため、学識経験を有し、より専門的な立場となる人材をスーパーバイザーとして位置付け、助言や指導を受けることで、スクールソーシャルワークのスキルを磨き、支援体制の質を高めていきます。

【現在の取組】

(1) 中学校に市独自で配置する「心の教室相談員」による相談支援

(2) 市独自で配置する「スクールカウンセラー」によるレインボーハウスでの相談支援

(3) 市独自で配置する「スクールソーシャルワーカー」2人による相談支援

5 地域における活動との連携

【新たな取組】

(1) 事業提示型協働事業を活用した市民活動団体との連携（令和5年度）

地域で長期欠席者に対する教育等支援や保護者への相談支援を実施している団体と連携し、事業提示型協働事業（市民との協働で実施することにより効果を高められる事業）として、レインボーハウスにおいて体験活動を実施することで、団体の育成に寄与するとともに、支援の担い手を増やしていきます。

6 切れ目のない支援に向けた関係機関との連携・情報交換・研究

【新たな取組】

(1) 未就学段階から中学校卒業後までの情報連携（令和6年度）

子どもに関する切れ目のない支援に向けて、未就学段階から中学校卒業後まで情報連携できるよう、会議体の充実・新規設置を進めます。

【現在の取組】

(1) 「長期欠席者教育支援会議」の開催（情報交換、医師等専門家からの助言）

(2) 「長期欠席者事例研究会」による教員等の自主的な研究活動

7 長期欠席への理解の促進

【新たな取組】

(1) 地域や保護者、教員等を対象とした講演会の開催（令和6年度）

長期欠席児童生徒の現状や大府市の取組を周知するとともに、学校現場や地域での理解を深め、協力した関係性を図ることができるよう、関係部局と連携して、引きこもり支援に関するテーマと合わせて、講演会を開催します。

■ 参考資料 おおぶレインボープランの全体図、長期欠席者支援の連携図 長期欠席児童生徒の出現率の推移（小中学校）

【問い合わせ先】

大府市学校教育課 担当：伊賀 友信（いが・とものぶ）、土屋 一樹（つちや・かずき）

電話：0562-46-3332 FAX：0562-44-0020 メール：gakkyo@city.obu.lg.jp

おおぶレインボープラン

参考資料No1-1

～総合的な長期欠席者支援によるWell-beingの向上～

- ☆ 新たな取組
- 現在の取組

学校外における居場所の充実

- ☆ 第二教育支援センターの新設（令和6年度以降）
- ☆ 民間フリースクール等を利用する児童生徒への支援（令和6年度）
- レインボーハウスでの支援

地域における活動との連携

- ☆ 事業提示型協働事業を活用した市民活動団体との連携（令和5年度）

ICTを活用した 相談支援・居場所の充実

- ☆ メタバースの活用（令和5年度）
- タブレットを活用したオンラインによる授業参加

学校内における居場所の充実

- ☆ 校内フリースクール化に関する調査・研究（令和6年度以降）
- 校内教育支援室の設置・支援員の配置（中学校）
- 養護教諭と養護教諭補助員の配置による保健室の2人体制（小学校）

切れ目のない支援に向けた 関係機関との連携・情報交換・研究

- ☆ 未就学段階から中学校卒業後までの情報連携（令和6年度）
- 長期欠席者教育支援会議の開催
- 長期欠席者事例研究会による自主的な研究活動

相談支援体制の充実

- ☆ スクールソーシャルワーカーによる支援体制の拡充（令和6年度）
- 心の教室相談員による相談支援（中学校）
- スクールカウンセラーによる相談支援（レインボーハウス）
- スクールソーシャルワーカー2人による相談支援

長期欠席への理解の促進

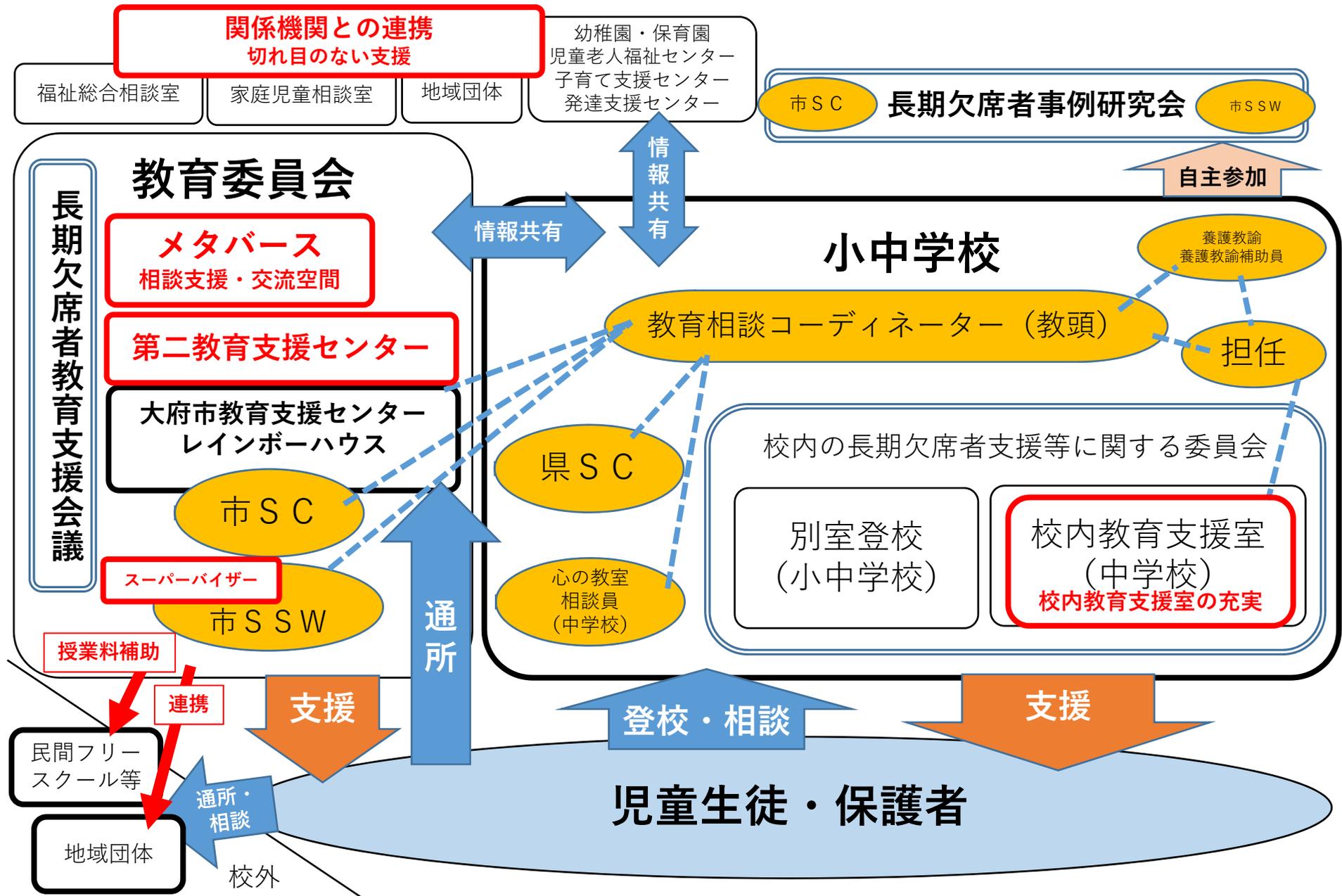
- ☆ 地域や保護者、教員等を対象とした講演会の開催（令和6年度）



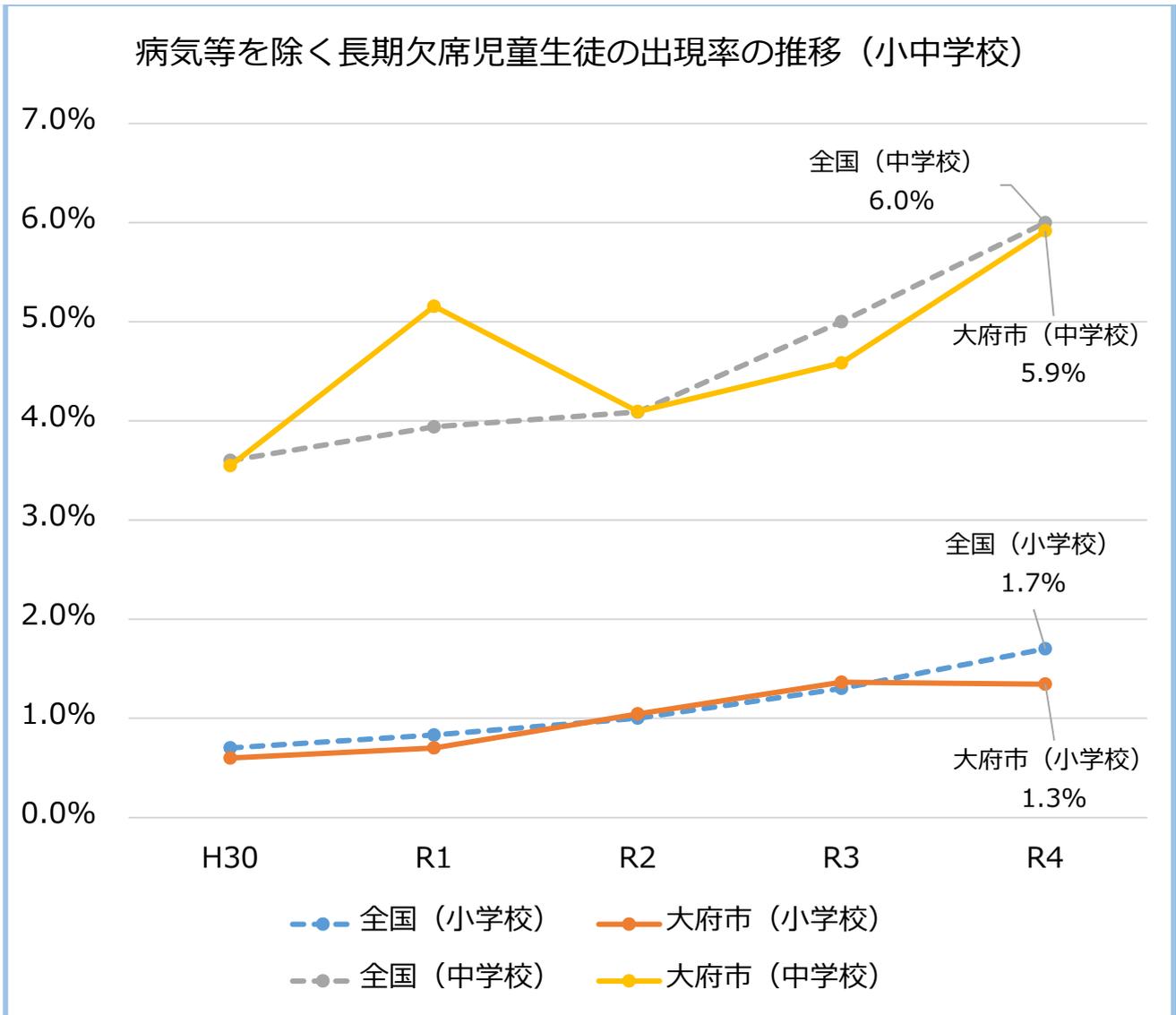
長期欠席者支援の連携図

----- 連携 参考資料№1-2

長期欠席児童生徒の自立と社会参加を促進し、自己肯定感を高め、幸せを身近に感じられるよう連携



■病気を除く長期欠席児童生徒の出現率の推移（小中学校）



			H30	R1	R2	R3	R4
全国	小学校	出現率	0.7%	0.8%	1.0%	1.3%	1.7%
		長期欠席児童数	44,841人	53,350人	63,350人	81,498人	105,112人
	中学校	出現率	3.6%	3.9%	4.1%	5.0%	6.0%
		長期欠席生徒数	119,687人	127,922人	132,777人	163,442人	193,936人
大府市	小学校	出現率	0.6%	0.7%	1.0%	1.4%	1.3%
		長期欠席児童数	34人	40人	60人	79人	78人
	中学校	出現率	3.5%	5.2%	4.1%	4.6%	5.9%
		長期欠席生徒数	93人	137人	110人	125人	162人